

複数のビューで提示可能なプロジェクト進捗管理システムの提案

【研究系卒研・制作系卒研】

067056 佐藤 仁美

(指導教員 速水 治夫 教授)

1. はじめに

現在、組織や企業の中で進行している業務は多岐に渡り、関連する人物も増え、各業務に存在するプロジェクトは大規模になってきている。従来の管理法では、進捗状況管理用データの二重管理や、編集時の間違いなどにより、管理に大幅な手間がかかることがある。

本研究では進捗状況をまとめ、複数のビューで提示することにより、プロジェクトに関連する人物の異なる要望に応える柔軟なプロジェクト進捗管理システムを提案する。

2. システム概要

本システムでは主にアニメーション制作会社の業務を想定し、プロジェクト管理における問題点に対する解決策を施した以下の特徴を持つシステムを実装した。

2.1 (特徴1) プロジェクト管理機能

システム内に仕事の大分類である複数の「プロジェクト」を登録し、ひとつのプロジェクトに対し、プロジェクトに属する仕事の小分類である複数の「シーン」を登録できる。シーン毎の工程を表したものを「作業表」といい、作業者が実際に編集を行うのは作業表である。これらの関連図を図1に示す。これにより、システム内で発注者の異なるプロジェクトを混在させることができる。

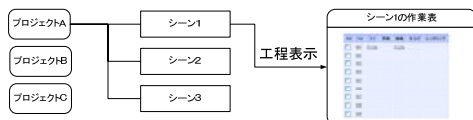


図1 プロジェクト関連図

2.2 (特徴2) 柔軟性の高い進捗管理表作成機能

プロジェクトにシーンを登録して作業表の作成準備ができる。作業表は横軸に工程、縦軸に作業の項目を持つ2次元の表である。作業表を作成するにはシーンを選択し、カット（縦軸の作業項目であり作業表の行に当たる）を追加する。各行と工程の交わる場所を作業コマと呼ぶ。作業者は作業コマをクリックし作業状態や詳細を記入できる。図2に作業表の見方を示す。



図2 作業表の見方

2.3 (特徴3) ビュー機能

本システムには複数プロジェクトを登録することができるが、複数の発注者から受けた仕事などを登録しているとき、上級者に管理者と同格の権限で作業表を閲覧させると、目的以外の作業表まで閲覧されてしまう可能性がある。そのため、本システムでは「ビュー」と呼ぶ機能を用いて、これを解決した。

ビューユーザというビュー機能利用専用ユーザを作成し、閲覧可能なシーンを指定する。シーンはユーザ作成後に再指定も可能である。ビューユーザの操作可能なメニューは指定したシーンの閲覧のみである。

3. 評価

本システムの操作性と機能の効果を評価した。主要機能のクリック回数とフォーム入力回数を測定した結果、どの動作も画面遷移数5画面以内に収まり、マウス操作をキーボード操作へ置き換えることも可能なため、本システムの利用者はストレスなく操作が可能であると考察する。

また、著者が本システムの元となったシステムをアニメーション制作会社へ納入済みであり、納入時にユーザからの評価を受けていることから、それらを強化した本システムは、システム利用者の要求を満たしており、評価は十分に客観性に足りているといえる。

4. まとめ

本論文では、現状の進捗管理の状況を分析して、その問題点から解決方法を導き、システムを実装し評価結果を提示した。分析した問題点の解決のためにいくつかの機能を実装した結果、操作性と機能の面からみてシステム利用者の抱える問題点を解決できた。

今後は、きめ細かいプロジェクト管理のために作業表編集機能の強化と、ビュー機能の強化が必要になると推測される。また、操作性の面からも、さらに画面遷移数を減らすことでストレスのない使いやすいシステムへと改良していきたい。

参考文献

- [1] 三上浩司, 安芸淳一郎, 宮徹, 金子満, “アニメーション制作におけるコンピュータ活用のためのワークフローの提案と制作技術の蓄積”, 情報処理学会論文誌, Vol.49, No.8, pp2773-2782, 2008年8月
- [2] 王瑞剛, 趙華安, “EXCELによるプロジェクト管理に関する研究”, 九州立大学工学部研究報告, Vol.31, pp9-16, 2007年2月